

News letter

一般社団法人
日本精神保健看護学会
Japan Academy of Psychiatric and Mental Health Nursing

第75号 | 平成28年
3月4日

(一社)日本精神保健看護学会事務局：〒162-0801 東京都新宿区山吹町358-5 アカデミーセンター
TEL:03-5389-6254 FAX:03-3368-2822 E-mail:japmhn-post@bunken.co.jp HP:http://www.japmhn.jp

一般社団法人日本精神保健看護学会

第26回学術集会・学会総会のご案内

この度、(一社)日本精神保健看護学会第26回学術集会および学会総会を滋賀県大津市において開催いたします。

今回は、テーマを「こころと身体(からだ)と社会を紡ぐ精神保健看護」とし、広義の精神保健看護における実践と更なる可能性について考える機会にしたいと考えます。

精神科領域以外の看護との関連に着目して、本学会の設立に寄与された高知県立大学学長の南裕子先生に基調講演をお願いしました。また、女性学、ジェンダー研究分野のパイオニアであり、指導的な理論家のおひとりである社会学者の上野千鶴子先生をお招きして、ジェンダー研究からみた精神保健について教育講演をお願いしています。シンポジウムも、精神保健看護の現状と今後を検討するために、サイコオンコロジーおよびサイコネフロロジーに関連した研究者と、リエソン精神看護の実践家をシンポジストにお迎えしました。精神疾患や精神障害をもつ人に限らず、がん、糖尿病、腎疾患等の慢性疾患などの身体疾患をもつ人のもっている力を信じ、その人らしく生きることを支えるための取り組みをされている看護実践の紹介や、的確なアセスメントをするための対象者理解の方法などについて、シンポジウムや講演によって効果的に考えることができるようにいたしました。

さらに、精神保健看護に関する実践研究や論文投稿の倫理に関する本学会理事会による2つの企画と平成15年に千日回峰行を成し、49人目の北嶺大行満大阿闍梨になられた藤波源信師による市民公開講話も準備しております。

会場は、JR京都駅から在来線で10分程度の最寄り駅にも近く、びわ湖畔に位置するびわ湖ホールとピアザ淡海です。眼前の雄大な琵琶湖や比叡山系といったロケーションをお楽しみいただけます。また、近江牛や鮎すしなどの近江の特産品に加え、瀬田しじみや鮎など、琵琶湖でとれた湖の幸を活かした名産品も自慢です。寺社仏閣も京都に負けず多数あり、歴史的にも興味の尽きない地域です。大河ドラマや時代劇のロケ地としてもしばしば利用されておりますので、馴染みのある風景を発見されることでしょう。

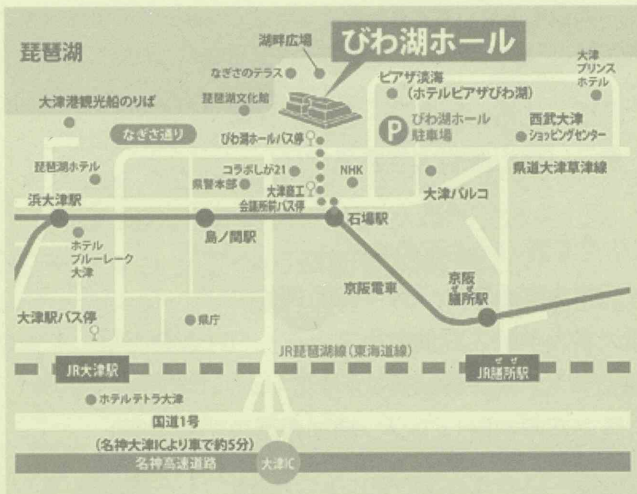
今回の学術集会では、事前参加登録および参加費のお支払いは、本学術集会ホームページのオンラインで行います。また、ワークショップの事前参加登録も、ホームページ上で行います。各事前参加登録の期限はホームページ上でご確認ください。

本学会会員の皆様の研究成果の発表、および看護職のお知り合いをお誘いいただき、多くの皆様にご参加いただきたく、本学会理事会および本学術集会企画・実行委員会一同、こころよりお待ちしております。

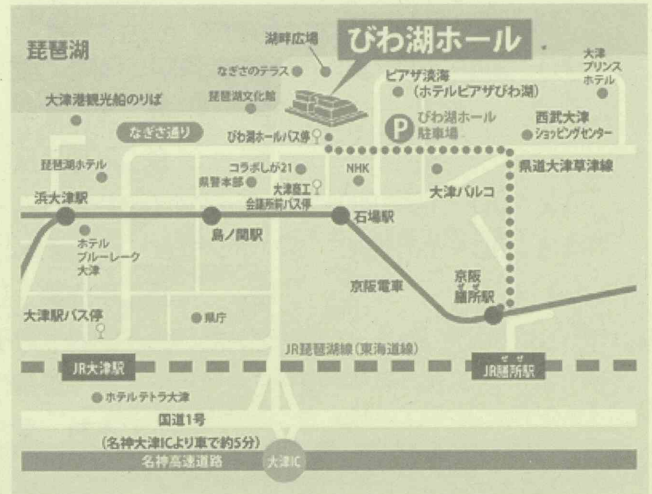
なお、ご案内が遅れましたこと、心よりお詫び申し上げます。詳細はホームページに適宜掲載いたしますので、ご確認をお願い申し上げます。

平成28年1月末に第26回学術集会会長からの辞任申し出を受け、本学会定款第4条第1号の事業として、理事長 田上美千佳が学術集会会長を代行いたします。

* JR 膳所駅からの詳しいアクセス



京阪電車と徒歩の場合、所要時間約5分運賃170円
 京阪膳所駅より京阪電車石山坂本線・坂本行に乗り、石山坂本線下車徒歩3分



徒歩の場合、所要時間約15分
 京阪膳所駅からとぎめき坂を北へ約200m、Y字路を右へ約300mで湖岸道路へ、さらになぎさ通りを西へ約550mで到着です。

プログラム

●第1日目 7月2日 (土) びわ湖ホール (中ホール)

●受付 (9:00開始)

9:30-9:50 開会のあいさつ

理事長・学術集会長代行 田上 美千佳 (東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科)

9:50-10:15 理事会企画 「論文投稿時の研究者ルール」

講師 編集委員会 委員長 岡田 佳詠 (筑波大学医学医療系)

10:30-11:30 基調講演

演 者：南 裕子 (高知県立大学 学長)

座 長：安藤 幸子 (神戸市立看護大学)

13:00-14:00 学会総会

14:00-15:30 教育講演 「精神保健とジェンダー」

演 者：上野 千鶴子 (立命館大学大学院先端総合学術研究科 特別招聘教授)

座 長：長谷川 雅美 (金沢医科大学看護学部)

15:30-16:30 理事会企画講演 「新しい倫理指針は精神看護研究に何を求めているのか」

講師 田代 志門 (国立がん研究センター 社会と健康研究センター 生命倫理研究室 室長)

座 長：野末 聖香 (慶應義塾大学看護医療学部)

●第1日目 7月2日 (土) ピアザ淡海

●受付 (9:00開始)

12:00-13:00 ランチョンセミナー

14:00-15:30 ワークショップ

15:00-17:00 一般演題・ポスター発表

■事前登録の参加費のお支払いについて

入金期限：2016年5月28日（土）

*事前参加登録後、クレジットカード（オンライン決済）、コンビニ決済、みずほ銀行への振込の3種類の方法によりお支払いください。なお、支払い時の手数料は恐れ入りますが各自ご負担くださいますようお願いいたします。

*5月29日（日）以降に入金手続きをしていただきましても、事前参加登録としてお受けできませんので、ご注意ください。

《ワークショップへの事前参加登録》

ワークショップへの参加登録は、5月を予定しております。学術集会HP上で行えます。

HP内の「事前参加登録」ボタンより登録を行ってください。

《問い合わせ先》

◎日本精神保健看護学会第26回学術集会・学会総会
大会事務局
滋賀県立大学人間看護学部甘佐研究室
〒522-8533 滋賀県彦根市八坂町2500
E-mail: japmhn26@nurse.usp.ac.jp

《事前参加登録に関する問い合わせ先》

運営事務局
株式会社日本旅行 京都四条支店
〒600-8006 京都市下京区柳馬場西入
ニッセイ四条柳馬場ビル2階
担当：新柳（しんばし）・窪田
TEL：075-223-2311 FAX：075-221-1726
E-mail: japmhn26@nta.co.jp

学術連携委員会報告

学術連携委員会委員長 宇佐美しおり

1. 今年は、平成28年度診療報酬改定が4月から行われますが、それに伴い、日本精神保健看護学会でも、昨年からの①精神科リエゾンチームの算定回数増加、②精神科訪問看護以外の訪問看護ステーションで身体疾患を有する患者で抑うつや不安、適応障害を有する患者への専門性の高い看護師による訪問の加算（認知症を除く）*日本訪問看護財団、日本在宅ケア学会と共同で提出、③精神障害者の1年以上の長期入院予防のための療養マネジメントチームの評価、④訓練を受けた看護師による認知行動療法への評価を提出しております。現在、採択状況、結果についてはまだ不明ですが、これらのどれかが採用され、精神科の看護師の役割拡大につながっていればと考えています。また平成30年度診療報酬、介護報酬改定へむけての準備もはじまりますので、エビデンスをお持ちの皆様は、ぜひ委員会までご連絡頂ければと思います。
2. また現在、昨年度から今年度にかけて作成しました①身体疾患で精神状態が不安定になった患者

への対応、②老年期のうつ病患者・家族への対応に関するケアガイドラインを学会誌へ掲載できるよう準備を行っています。臨床現場の中で、これらの患者様方に遭遇された場合に、ぜひ活用して頂ければと思いますし、また周囲の皆様へも活用をお勧め頂ければと思います。学会ホームページにも掲載していきたいと考えています。

3. さらに、来年度の精神科リエゾンチーム講習会も、日本総合病院精神医学会と合同で、実施することとなりました。7月から9月までの間で、2日間を考えておりますが、別途詳細はお知らせしたいと思います。精神科リエゾンチームを運用しようとしている方々、あるいはすでに運用されていて困っていらっしゃる方々など多くの方々にご参加頂き、チームの運用、看護師としての役割を再度確認して頂ければと考えております。今年も学術連携委員会では多くの活動がありますが、引き続きご協力頂けますようお願いいたします。

編集委員会報告

編集委員長 岡田 佳詠

●投稿規程の改定

この度、研究倫理に関して、下記の内容を新たに投稿規程に追加しました。

1. 研究遂行および論文投稿の際に遵守すべき研究倫理
2. 著者資格 (Authorship)

3. 利益相反

4. 研究倫理に反する行為への対処

詳細は、学会誌および学会ホームページでご確認をお願いします。

引き続き、会員の皆様からのご投稿をお待ちしております。

教育活動委員会報告

教育活動委員 長谷川雅美

●教育活動委員会企画シンポジウム

平成26年7月「長期入院精神障害者の地域移行に向けた具体的方策に係る検討会」(厚労省)により地域移行を目指した具体的方策の方向性がとりまとめられ、平成27年5月に文部科学省高等教育局から看護基礎教育ならびに継続教育において精神障害者の地域移行支援を充実することの重要性が提示されました。このような背景から、本年度教育活動委員会では、「精神障害者の医療と在宅をつなぐ看護教育の取り組み」をテーマとして、東京、金沢、大阪、仙台でシンポジウムを開催しました。いずれのシンポジウムもその地に根ざした地域支援や教育活動を実践している先生方にご発表いただき、参加者との活発なディスカッションが交わされました。

大阪医科大学看護学部で開催された第3回シンポジウム「WRAPを取り入れた精神科訪問看護ステーションの実際と看護教育」では、78名(スタッフ含む)の参加があり、精神科訪問看護ステーションから、進あすか先生、小瀬古伸幸先生、精神科訪問看護実習を取り入れている大学側から、高橋篤信先生にご発表いただき、効果的な地域支援や看護教育の

あり方を共有することができました。

この会では、WRAPの考え方のみならず、当事者の主体性を引き出し、新モデルを通して改めて精神看護の原点を確認する機会であったことが参加者のアンケート結果からも示されました。

4回のシンポジウムを通して、地域支援に関心の高い看護職者が増えていることがわかり、今後、教育や実践の中で開花することが期待されます。シンポジウムには、学会員のみならず、臨床、地域で働く多職種も含めた非会員の参加が多く、精神看護の従事者に開かれた会になったことは、地域移行支援というテーマがもたらしたお土産でした。

これを機会に学会員がさらに増えることを願っております。



委員会及び委員の紹介

■学術連携委員会

委員長 宇佐美しおり	熊本大学大学院 保健学教育部
遠藤 淑美	大阪大学大学院医学系 研究科保健学専攻
岡谷 恵子	東京医科大学看護学科
濱田 由紀	東京女子医科大学看護学部
福嶋 好重	横浜市立市民病院
河野 伸子	横須賀共済病院
石飛マリ子	熊本大学大学院 保健学教育部

■編集委員会

委員長 岡田 佳詠	筑波大学医学医療系
秋山 美紀	東京医療保健大学
畦地 博子	高知県立大学看護学部

安藤 幸子	神戸市看護大学看護学部
上野 恭子	順天堂大学大学院 医療看護学研究科
榊 恵子	昭和大学保健医療学部 看護学科
國方 弘子	香川県立保健医療大学 保健医療学部

■広報委員会

委員長 岩瀬 信夫	愛知県立大学看護学部
瀧川 薫	(前)滋賀医科大学医学部
安保 寛明	山形県立保健医療大学 保健医療学部
中戸川早苗	愛知県立大学看護学部
糟谷久美子	愛知県立大学看護学部

■教育活動委員会

委員長 野末 聖香	慶応義塾大学看護医療学部
長谷川雅美	金沢医科大学看護学部
安保 寛明	山形県立保健医療大学 保健医療学部
田中 浩二	金沢医科大学看護学部
長山 豊	金沢医科大学看護学部
大川 貴子	福島県立医科大学看護学部
大熊 恵子	宮城大学看護学部

福田 紀子	慶応義塾大学看護医療学部
笥 亮子	慶応義塾大学看護医療学部
緑川 綾	慶応義塾大学看護医療学部

■総務委員会

委員長 江波戸和子	杏林大学保健学部
森 真喜子	国立看護大学校
美濃由紀子	東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科

代議員一覧

畦地 博子	高知県立大学看護学部	下里 誠二	信州大学医学部保健学科
安藤 幸子	神戸市看護大学	末安 民生	天理医療大学医療学部看護学科
安保 寛明	山形県保健医療大学看護学科	寶田 穂	武庫川女子大学看護学部
岩切真砂子	公益財団法人慈圭会慈圭病院	瀧川 薫	(前)滋賀医科大学医学部
岩瀬 信夫	愛知県立大学看護学部	多喜田恵子	愛知医科大学看護学部
上野 恭子	順天堂大学医療看護学部	武井 麻子	東京集団精神療法研究所
宇佐美しおり	熊本大学大学院保健学教育部	田上美千佳	東京医科歯科大学大学院 保健衛生学研究科
江波戸和子	杏林大学保健学部看護学科	近澤 範子	(前)兵庫県立大学
遠藤 淑美	大阪大学大学院医学系研究科 保健学専攻	堤 由美子	鹿児島大学医学部保健学科
大川 貴子	福島県立医科大学看護学部	寺岡征太郎	東京医科大学看護学科
岡田 佳詠	筑波大学医学医療系	永井 優子	自治医科大学看護学部
香月富士日	名古屋市立大学看護学部	中山 洋子	高知県立大学看護学部
萱間 真美	聖路加国際大学看護学部	野末 聖香	慶應義塾大学看護医療学部
北岡 和代	金沢大学医薬保健学域・保健学類	長谷川雅美	金沢医科大学看護学部
北野 進	東京都立松沢病院	福嶋 好重	横浜市立市民病院
金城 祥教	名桜大学人間健康学部看護学科	松下 年子	横浜市立大学医学部看護学科
國方 弘子	香川県立保健医療大学保健医療学部 看護学科	三木 明子	筑波大学医学医療系
國生 拓子	広島大学大学院保健学研究科	宮本 真巳	亀田医療大学看護学部
小山 達也	東京女子医科大学看護学部	宮本 有紀	東京大学大学院医学系研究科 精神看護学分野
澤田いずみ	札幌医科大学保健医療学部看護学科	森 千鶴	筑波大学医学医療系医療系
式守 晴子	静岡県立大学看護学部	八木こずえ	北海道医療大学看護福祉学部

理事会報告

総務委員会

平成27年度第2回（9月）と第3回（12月）の理事会が開催されました。理事会では、今年度の事業計画に沿って各委員会活動（教育活動委員会、編集委員会、広報委員会、学術連携委員会、総務委員会）を中心に、学術団体としての活動の推進、政策提言、会員の皆様へのサービス向上、学術集会の開催などについて検討しております。具体的な活動は、各委員会からの報告をご参照ください。また一般社団法人第2期理事会では、法人としての組織全般の基盤を強化するとともに、様々な課題の整理をしております。

平成27年12月現在、本学会会員数は1,255名となりました。学会ホームページやマイページでの情報発信、または会員の皆様からの御意見を頂きながら活動を展開したいと思っております。まだ登録・変更なさっていない方は、ぜひご活用ください。

●代議員会のお知らせ

平成27年度第2回代議員会が2016年6月18日（土）13：30～16：00、東京医科歯科大学3号館18階講義室1にて開催される予定です。



ニュースレター原稿募集

学会では、学会員の主催する精神看護関連の活動を支援し、また、より広く交流を図れるよう、ニュースレターに掲載する原稿を広く募集しております。

皆様が主催される様々な精神看護関連の活動について、ニュースレターでの広報をご希望の際には、その活動内容、主催者（お名前とご所属）、開催場所・日時、参加方法、連絡先に関する原稿をお寄せください。

また、現在の精神保健医療や看護に関するご意見や問題提起、あるいは学会員の方々と共有したい情報などもお寄せいただければ幸いです。広報委員会で検討させていただきます。ニュースレターに掲載したいと考えています。皆様からのお原稿をお待ちしております。

News letter

編集後記

ニュースレター75号をお届けいたします。梅の花が咲き始めていますが、桃の節句までには何とかお届けできるよう、編集委員なりに努力しました。今号より一般社団法人日本精神保健看護学会に名称を統一して発行することとなりました。

第26回学術集会・学会総会の案内等を掲載しました。最近、京都では外国からの団体の予約でホテルが取れないという話をよく聞きます。お早めの参加登録と、宿泊施設の確保をおすすめします。



文責 岩瀬信夫

広報委員会 広報委員長：岩瀬 信夫 広報委員：瀧川 薫、安保 寛明（兼務）、中戸川早苗、糟谷久美子
（お問い合わせ先）メールアドレス：iwase@nrs.aichi-pu.ac.jp
TEL/FAX：052-778-7126